

# 自然観察会報告

## 糸魚川 - 静岡構造線の見学会

横山 謙二



写真1. 糸魚川 - 静岡構造線を観察する参加者

11月29日、今年6月の静岡新聞に掲載されました、塩坂邦雄氏によって静岡市清水区で発見された糸魚川-静岡構造線の露頭を見学にいきました。案内者の塩坂氏は、パラグライダーにのり、上空よりリニアメント（直線上の地形構造）を探し、この露頭を発見したそうです。

新聞に掲載され、話題になったこともあって、本観察会は参加希望者が多く、27名もの人たちが参加しました。

観察会は、清水区西里のヤマセミの湯駐車場に集合し、そこから車で約5分ぐらいのところにある山葵棚があるところから出発しました。この出発したところは、春先にスギタニルリシジミが見られ、ムカシトンボの記録があるところで、私も良く来ているところでしたが、この先で断層の露頭が発見されるとは思ってもみませんでした。

その場所から、上流に向かって沢沿いをひたすら登りました。途中ときおり、約1000万年前に海底に堆積した砂や泥からなる静岡層群の地層が見られ、講師の柴正博氏から構造などの静岡層群の特徴を説明してもらいました。

沢をひたすら登り、約40分、沢沿いに山葵棚の広がるところの沢の左岸に大きい露頭が見えました。これが糸魚川-静岡構造線の露頭です（写真2）。断層の露頭は高いところで高さ6mで、南北に30mほど見られます。これほどの規模で断層が、自然状態で残され

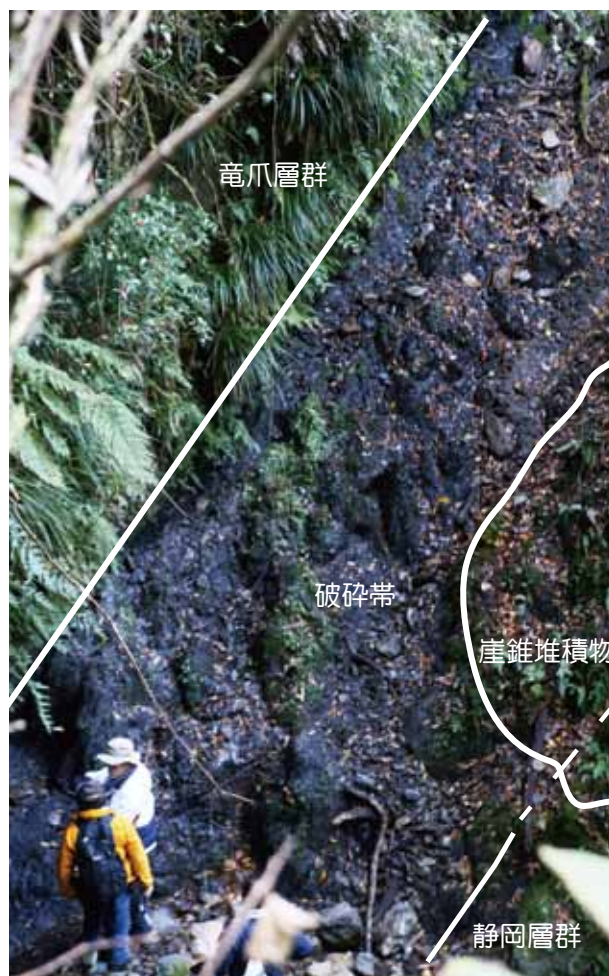


写真2. 糸魚川 - 静岡構造線の露頭

ているのは珍しいのではないのでしょうか。

写真2の左側の草のついていところが約1600万年前の竜爪層群です。この竜爪層群の岩石は、ここでは緑がかった白色の安山岩質火山岩類でできています。中央の黒色のところが断層が動き岩石が破碎された破碎帯で、厚さ約2mあります。断層が動いたあとの鏡面付近は、岩石が粉碎されてできた断層粘土が約30cm見られます。露頭の右下には黒色の砂岩や泥岩からなる静岡層群が見られます。この断層を境に、竜爪層群と静岡層群がわかれているのがよくわかります。

案内者の塩坂氏の話では、この断層のリニアメントを南に追っていくと静岡市街地を通り、駿府城公園の西側の方に延びているそうです。